

## 苛立ち

砂浜は波に濡れて黒い色を濃くする  
その中に穿たれた黒く小さい円孔と  
そこからぼつりとせり出してくる泡の半球

舞い降りてくる鳥たちの目を僕は怖れる

擦り切れた弓毛で弦を空しく撫でるような  
僕はふと、武満の作品を思い出す  
人間の影をひとかけらも感じさせない作品たちを・・・

落とせよ、ほら、落とせよ  
‘しるし’となるべきものを  
さあ、落とせよ

苛立っているのは僕ではない  
この世界そのものが苛立っている  
僕は、ただそれに衝き動かされているだけだ

波打際をつたって僕が歩いてゆくにつれ  
鳥たちは少しずつ移動してゆく  
僕を避けるようにして、じりじりと

お前たちの漁っているものなど知っている  
僕たちの薄汚いおこぼれだろう  
さあ、行くがいい  
あの漁港へと、飛び立つがいい  
そしてますます薄汚くなるがいい

(2008.2.9)